

おすすめ公演PICK UP

特別コンサート

上岡敏之 ピアノ・リサイタル

コレペティトゥア(ピアノを弾きながら歌手に音楽稽古をつけるコーチ)からのたたき上げ指揮者である上岡敏之は、ピアノの名手としても知られています。びわ湖ホール芸術監督 阪 哲朗ともラフマニノフのピアノ協奏曲第3番のソリストとして共演しており、阪芸術監督が敬愛してやまない音楽家です。

指揮者の弾くピアノは、ピアニストの弾くピアノと何が違うのか。全員にあてはまるわけではなからうが、敢えて一般化する危険を冒すとすれば、音楽を個々のモチーフや声部レヴェルにまでバラバラに分解した上で、もういちど丹念に、その分節されたモチーフの意味が聴き手に最大限伝わるように組み立てなおしてみせる。いわば、指揮での方法論をピアノ演奏に援用する手法にある。(中略)

だが、ただ音楽を一旦バラバラにし、それをレゴのピースよろしく組み立てただけ、と言うだけでは、曲の構造はわかっても、演奏の魅力は生まれない。上岡の演奏には、何とも言えぬ、耳をそばだててしまうような説得力、いや、もっと言えば色気のようなものが宿っており、何度聴いてもその魅力はまた別の光彩を放ちながら聴き手に迫る。(中略)

ギリギリまで音楽の構造を突き詰めた上で、最終的にはそれらをすべて解き放って音楽の愉しさに身を委ねる。複眼的に俯瞰する視点をもって曲を立体的に構成し、ピアニストを縛る呪縛すら解き放ってしまう。上岡のピアノに教えられることは数限りない。

広瀬大介

(日本コロムビア「上岡敏之 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ(月光)(テンペスト)第32番 他」ノーツより抜粋)

PROFILE

ドイツを拠点に指揮者として活躍する名匠。

東京藝術大学でマルティン・メルツァーに指揮を師事し、作曲、ピアノ、ヴァイオリンも並行して学ぶ。ロータリー国際奨学生としてハンブルク音楽大学に留学し、クラウスペーター・ザイベルに指揮を師事。キール市立劇場ソロ・コレペティトル及びカペルマイスターとしてキャリアを開始。以後、ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ヴッパータール市立歌劇場音楽総監督、ザールランド州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール響首席指揮者等を歴任し、ヴッパータール市立歌劇場インテンダントの要職も務めた。日本では新日本フィル音楽監督を務めた。

ピアノの名手としても知られ、ピアノ協奏曲の独奏も務め、室内楽での演奏機会も多い。2022年4月に自身初となるピアノ・リサイタル・ツアーを開催し、深く卓越した解釈と独特の世界観で聴衆を虜にした。



©堀田力丸

PROGRAM

ドビュッシー：前奏曲第2集より
第2曲「枯葉」
第8曲「水の精」

シューマン：クライスレリアーナ op.16

スクリャービン：ピアノ・ソナタ 第5番 op.53

ショパン：24の前奏曲集 op.28

9月26日(木) 14:00開演 [小ホール]

一般3,850円 青少年(24歳以下)1,650円